



考古展

第2回

小さな展覧会

—昭和57年度発掘調査の成果から—

第2回 小さな展覧会開催にあたって

埋蔵文化財の発掘調査は、全国的に増加していますが、当財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターにおきましても、昨年度、京都府内各地で35件の調査を行いました。

これらの調査結果は、現地説明会、研修会等で、そのつど報告し、また、『京都府埋蔵文化財情報』、『京都府遺跡調査概報』等の刊行物を通じまして、広く紹介してまいりました。

「小さな展覧会」も、昨年、わずかながら出土遺物を展示して、皆様から御好評をいただきました。

今年もささやかではありますが、出土遺物を展示いたしますので、この機会に多くの方々に各時代にわたる種々の出土品を御高覧いただき、私どもの仕事の一端でも御理解していただければ幸甚です。

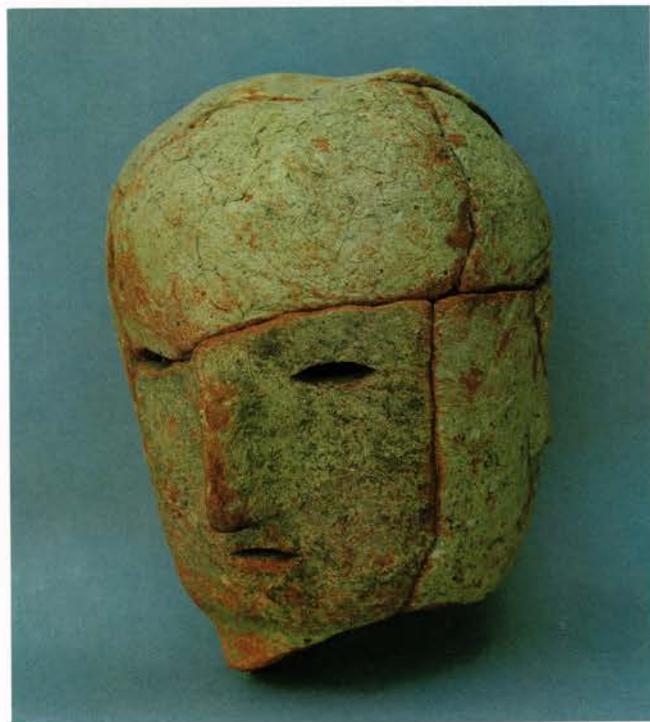
昭和58年8月

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
理事長 福山敏男

目次	凡例
第2回 小さな展覧会開催にあたって	1. 本パンフレットは「第2回 小さな展覧会—昭和57年度発掘調査の成果から—」のために作成したものである。
昭和57年度の発掘調査概要…………… 1	2. 展示対象遺跡は、当センターが1982年4月から1983年3月までに発掘調査を実施したものであり、パンフレットの遺跡配列は、年代順とした。
昭和57年度調査一覧表…………… 2	3. 遺物写真は、必しもスケールを統一していない。
展示品出土遺跡位置図…………… 3	4. 展示遺物は当センターが保管しているので、今後とも活用していただきたい。
遺跡の概要…………… 4	
展示品目録……………42	



案 (古殿遺跡)



人物埴輪頭部 (今里舞塚古墳)

昭和57年度の発掘調査概要

昭和57年度の発掘調査は、道路建設に伴う事前調査が大多数を占めました。建設省関係では太田遺跡・北金岐遺跡・亀岡条里制遺構などが調査の対象になりました。日本道路公団の関係では、大内城古墓・後正寺古墓・小屋ヶ谷古墳・洞楽寺古墳・山田館跡・城ノ尾城館跡、ケシヶ谷遺跡が近畿自動車道舞鶴線建設に先立って調査されました。老ノ坂9号バイパスの予定路線内では、医王谷古墳・医王谷焼窯跡のほか、篠窯跡群に属する3か所の窯跡（西長尾奥第一窯跡・黒岩窯状遺構・石原畑窯跡群）の調査が実施されました。その他、府道外環状線や市道石見・淀線の改良工事に伴って、長岡京右京110次・同105次の調査が行われて、貴重な成果を得ました。

このほかの調査では、府立学校の増改築・新築工事の関係のものが多く、古殿遺跡・下畑遺跡・亀山城跡・伏見城跡・狐谷遺跡などが調査されて、弥生時代から江戸時代に至る数々の種類の遺跡のあり様を明らかにすることができました。

ほかにも調査された遺跡は多いですが、今後も発掘調査によって府下の歴史・文化などがさらに明らかになっていくと思われます。



第1回小さな展覧会

昭和57年度発掘調査一覧表

番号	遺跡名称	種別	所在地	調査担当者	調査期間	概要	出土遺物
1	古殿遺跡	集落跡	中郡峰山町古殿	戸原 和人 藤原 敏見	57. 7. 5~ 11. 30	解説参照	解説参照
2	下畑遺跡	集落跡	与謝郡野田川町 字三河内	竹原 一彦	57. 7. 22~ 10. 1	解説参照	解説参照
3	中山城跡	城跡	舞鶴市字中山	竹原 一彦	57. 12. 8~ 58. 3. 31	中世墳墓3基, 堀切	近世陶磁器, 土師 器, 銭貨, 石臼
4	土師南遺跡	散布地	福知山市土師	竹原 一彦	57. 7. 1~ 9. 16	顕著な遺構なし	土師器, 須恵器
5	大内城古墓	墳墓	福知山市字大内	伊野 近富 岩松 保敏 藤原 敏見	57. 4. 2~ 7. 28	解説参照	解説参照
6	後正寺古墓 小屋ヶ谷古墳	墳墓	福知山市字大内	岩松 保	57. 6. 26~ 12. 8	解説参照	解説参照
7	洞楽寺 1~3号墳	古墳	福知山市字大内	伊野 近富 岩松 保	57. 9. 6~ 11. 30	横穴式石室1基 中世墳墓3基	須恵器, 土師器, 銀環
8	山田館跡	墳墓	福知山市字大内	岩松 保	57. 12. 6~ 58. 3. 31	解説参照	解説参照
9	城ノ尾城館跡	館跡	福知山市字宮	小山 雅人	57. 12. 22~ 58. 3. 29	掘立柱建物2, 堅穴住居1, 土壘	弥生土器, 土師器, 瓦器, 石器
10	ケシヶ谷遺跡	集落跡	福知山市字大内	伊野 近富	58. 3. 1~ 3. 31	堅穴住居, 溝状 遺構	弥生土器, 石鏃, 中世土師器, 瓦器
11	青野遺跡第7次	集落跡	綾部市青野町西 吉美前	小山 雅人	57. 7. 12~ 11. 18	解説参照	解説参照
12	青野遺跡第8次	集落跡	〃	小山 雅人	57. 7. 12~ 10. 20	解説参照	解説参照
13	千代川遺跡	集落跡	亀岡市千代川町	岡崎 研一	57. 11. 17~ 58. 3. 31	堅穴住居2, 環 濠	土師器, 木製品, 墨書土器, 須恵器
14	北金岐遺跡	集落跡	亀岡市大井町字 北金岐	田代 弘	58. 1. 19~ 3. 31	溝, ピット	弥生土器
15	太田遺跡	集落跡	亀岡市稗田野町 太田	村尾 政人 岡崎 研一 田代 弘	57. 5. 6~ 10. 30	解説参照	解説参照
16	亀岡条里制跡	条里制 跡	亀岡市大井町他	村尾 政人 岡崎 研一 田代 弘	57. 5. 6~ 12. 10	現存条里以外に 顕著なものなし	
17	医王谷古墳	古墳	亀岡市下矢田町 医王谷	引原 茂治	57. 9. 17~ 58. 2. 12	解説参照	解説参照
18	医王谷焼窯跡	窯跡	亀岡市下矢田町 医王谷	引原 茂治	58. 2. 14~ 3. 31	解説参照	解説参照
19	篠西長尾奥 第1窯跡	窯跡	亀岡市篠町	引原 茂治 土橋 誠	57. 5. 10~ 6. 30	灰原を確認	須恵器多量
20	篠黒岩窯状遺構	窯跡	亀岡市篠町	引原 茂治 土橋 誠	57. 7. 10~ 9. 4	窯跡1を検出	遺物はほとんどな し
21	篠石原畑窯跡群	窯跡	亀岡市篠町	石井 清司	57. 5. 16~ 12. 10	解説参照	解説参照
22	亀山城跡	城跡	亀岡市横町	土橋 誠 岡崎 研一	57. 10. 18~ 11. 6	外堀の一部を検 出	近世陶器, 青磁, 瓦, 須恵器
23	深草遺跡	集落跡	京都市伏見区深 草	竹井 治雄 黒坪 一樹	57. 10	顕著な遺構検出 されず	
24	伏見城跡	城跡	京都市伏見区	長谷川 達 久保田 健士	58. 1. 13~ 2. 28	解説参照	解説参照
25	法成寺跡第3次	寺院跡	京都市上京区	小池 寛	57. 11. 5~ 12. 9	近世の井戸, 柵 列	近世の陶磁器, 土 師器
26	法成寺跡第4次	寺院跡	京都市上京区	小池 寛	58. 3. 10~ 3. 19	顕著な遺構なし	近世陶磁器
27	長岡宮跡 第123次	宮殿跡	向日市寺戸町東 野辺	竹井 治雄	57. 7. 16~ 9. 17	解説参照	解説参照
28	長岡宮跡 第125次	宮殿跡	向日市森本町前 田	久保田 健士	57. 7. 29~ 9. 21	解説参照	解説参照
29	長岡京跡右京 第105次	都城跡	長岡京市今里西 ノ口, 舞塚	山口 博	57. 7. 12~ 58. 1. 26	解説参照	解説参照

30	長岡京跡右京 第107次	都城跡	長岡京市井ノ内 西ノ口	山下 正	57. 7. 20~ 10. 20	解説参照	解説参照
31	長岡京跡右京 第110次	都城跡	長岡京市今里三 丁目	黒坪 一樹	57. 8. 4~ 9. 20	解説参照	解説参照
32	長岡京跡左京 第98次	都城跡	向日市上植野町 西畑	山下 正	57. 12. 23~ 58. 3. 14	解説参照	解説参照
33	木津川河床遺跡	散布地	八幡市八幡字源 野・焼木	長谷川 達	57. 9. 3~ 10. 4	解説参照	解説参照
34	狐谷遺跡	散布地	八幡市美濃山狐 谷	久保田健士	57. 5. 14~ 7. 17	土壌、溝を検出	弥生土器、須恵器
35	馬原古墳他	古墳他	相楽郡精華町東 畑	石尾 政信 黒坪 一樹	57. 10. 5~ 58. 3. 31	顕著な遺構なし	

展示品出土遺跡位置図



太田遺跡

弥生時代・前期～中期
亀岡市稗田野町太田



調査地全景

〔遺跡の概要〕

太田遺跡は、大井川右岸の行者山から南東へゆるやかにのびる標高100m程の丘陵の縁辺上に位置しています。

検出された遺構は、弥生時代前期の土壙^{どこう}や前・中期の溝が大部分ですが、他に弥生時代後期の溝・古墳時代後期の土壙・平安時代のピット等も検出しました。この中で最も注目すべきことは、弥生時代前・中期の土器や石器を出土した溝や土壙が発見されたことです。これまで、亀岡盆地では弥生時代前期にまで遡^{さかのぼ}りうる遺構群は検出されていなかっただけに、太田遺跡の存在は、亀岡盆地における弥生時代全体の様相^{はあく}を把握する上で貴重な発見といえます。

検出遺構のうち、土壙は約40基あり、形態も円形・楕円形^{だえん}・長方形と様々ですが、骨片・木製櫛^{くし}・石器等の出土遺物からみて土壙墓と推定してよいようです。また、溝は9条もあり、その2条の円弧状^{てい}を呈する溝の東側には住居区が存在すると考えられますので、大規模な環濠集落^{かんどうしゅうらく}とみられます。



1. 弥生土器・甕



2. 弥生土器・壺



3. 弥生土器・鉢



4. 弥生土器・甕



5. 弥生土器・無頸壺



6. 弥生土器・小型鉢

古 殿 遺 跡

弥生時代・後期～古墳時代・前期
中郡峰山町1185



調査地全景

〔遺跡の概要〕

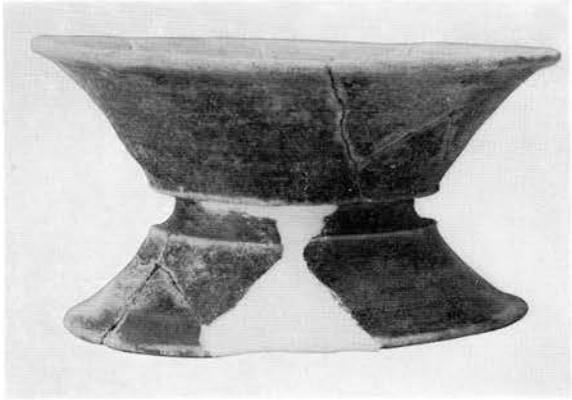
古殿遺跡は、中郡峰山町に所在し、昭和52年度の発掘調査で、弥生時代後期から鎌倉時代まで断続的に営まれた集落跡であることが明らかにされました。

今回の調査でも、弥生時代末期から古墳時代にかけての遺構が数多く検出されました。その中には^{たてあなしきじゆうきよ}竪穴式住居3^{せき}基や堰（用水施設）、^{あんきよしきはいすいしせつ}暗渠式排水施設など、竹野川流域の村や集落のあり方や移り変わりを知るうえで重要な資料を得ました。

出土遺物は、大部分が弥生時代末から古墳時代まで存続した大溝から出土したものです。その中で注目すべき遺物としては、^{まがたま}注口土器・^{へきぎよくせいくだたま}土製勾玉・碧玉製管玉未製品等があります。また、木製の^{あん}案（つくえ）・^{ばん}盤・ヘラ状木製品（シャモジ）といった木製品も大量に出土しており、当時の村の様子を生々しく私たちに伝えてくれます。



7. 土師器・小型丸底壺



8. 土師器・鼓形器台



9. 土師器・注口土器



10. 土師器・壺



11. 弥生土器・器台



12. 弥生土器・蓋

木津川河床遺跡

弥生時代・後期～古墳時代・前期
八幡市八幡字源野・焼木



調査地遠景

〔遺跡の概要〕

木津川河床遺跡は、木津川にかかる旧京阪国道の御幸橋付近の河原を中心に広がる遺跡です。木津川の河原からは、各時代に亘^{わた}っての遺物が多量に出土することで有名です。

今回の調査地は、木津川の北側に位置し、木津川、宇治川によって挟^{はさ}まれた地域です。遺構は、近世の杭^{くい}や畦畔^{けいはん}を検出したにとどまりましたが、弥生時代末から古墳時代にかけてや中世の遺物がまとまって出土しました。出土した遺物は、弥生時代末から古墳時代前期にかけての土器が多く、器種は壺^{つぼ}・甕^{かめ}・高杯^{たかつき}・器台^{きだい}・鉢^{はち}・蓋^{ふた}等です。また、中世の遺物としましては、中国製の青磁皿^{せいじ}が出土しています。他にも、瓦器碗^{がきわん}・羽釜^{はがま}・搦鉢^{すりばち}等があります。

今回の調査では、明確な遺構面は検出し得ませんでした。木津川河床遺跡が木津川周辺の水田まで及んでいることを確認し、遺物の出土状態等から考えて、この遺跡が散布地ではなく、各時代に亘る集落跡であろうという手がかりをつかむことができました。



13. 土師器・鉢



14. 弥生土器・蓋



15. 弥生土器・甕



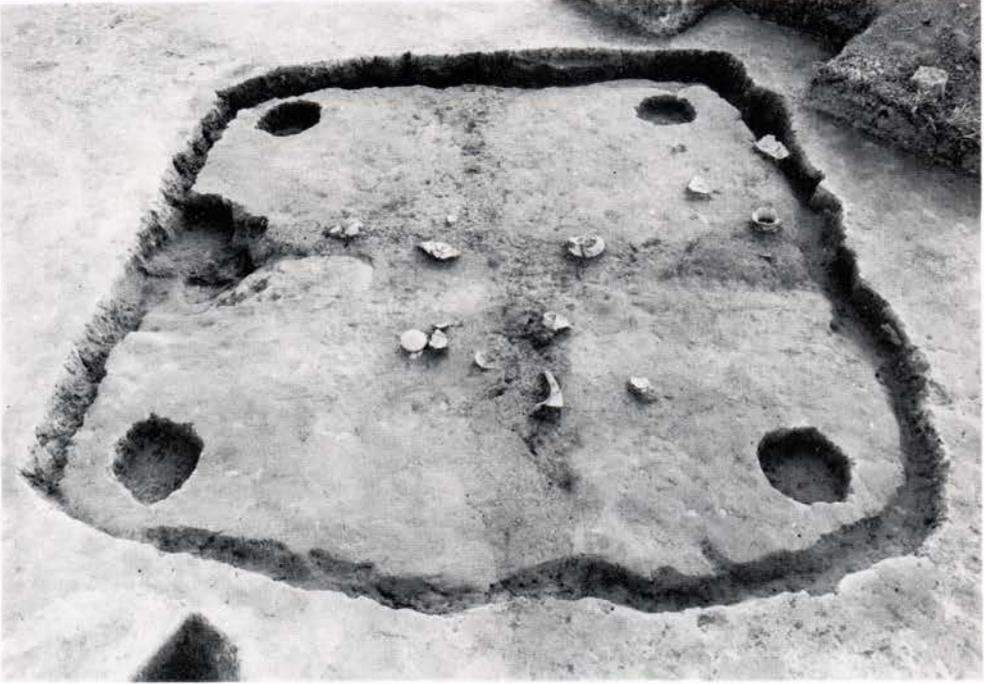
16. 弥生土器・壺



17. 土師器・甕

青野西遺跡

弥生時代・後期～古墳時代・前期，奈良時代
綾部市青野町西吉美前



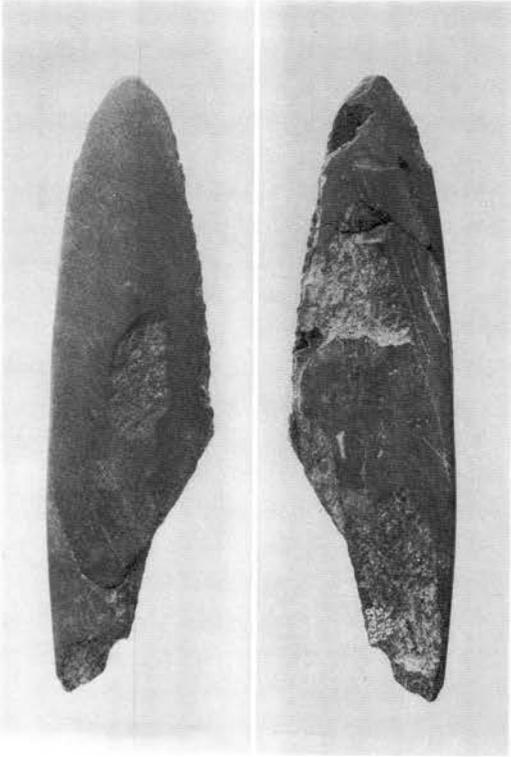
竪穴式住居跡

〔遺跡の概要〕

由良川の左岸に位置する青野遺跡は，弥生時代から古墳時代にかけての遺跡として著名ですが，今回は二度（7次・8次）にわたって発掘調査が実施されました。

第7次調査では，たてあなしきじゆうきよ竪穴式住居1基と柱穴群を検出しました。柱穴群については，建物の大きさを確定できませんでしたが，住居跡の方は，出土遺物から7世紀末葉頃と推定されます。

第8次調査では，由良川の旧河道と竪穴式住居5基を検出しました。中でも由良川の旧河道を発見したことは重要といえます。現在，青野遺跡は由良川の左岸に位置していますが，弥生から平安時代にかけては右岸に存在したことになり，周辺の遺跡との関係を考える上で，これまでとは異なった見方をする必要が生じてきました。また，竪穴式住居群も重要な発見で，出土遺物からみて弥生時代から古墳時代への移行期に属するもののあることが判明し，集落の変遷を考える上で貴重な発見といえます。



18. 磨製石劍



19. 土師器・小型丸底壺



20. 弥生土器・有孔鉢



21. 土師器・甕



22. 土師器・高杯

今里舞塚古墳

(長岡京跡右京第105次調査)

古墳時代・後期
長岡京市今里舞塚



前方部周濠

〔遺跡の概要〕

この古墳は、長岡京跡右京第105次調査で見つかったものです。この古墳は以前から、京都府教育委員会の行った立会調査や地名等からその存在が考えられていました。

今回の調査で、後円部と前方部の周濠を検出し、この古墳が帆立貝式ほたてがいの古墳であることがわかりました。周濠しゅうごうの幅は、約5～7mを計り、深さは約0.7～1.1mあります。周濠内からは、多量の円筒埴輪片えんとうはにわとともに乙訓地域では初例の人物埴輪の頭部が出土し、この古墳に埴輪が並べてあったことが判ります。規模は、全長50m近くと推定されます。

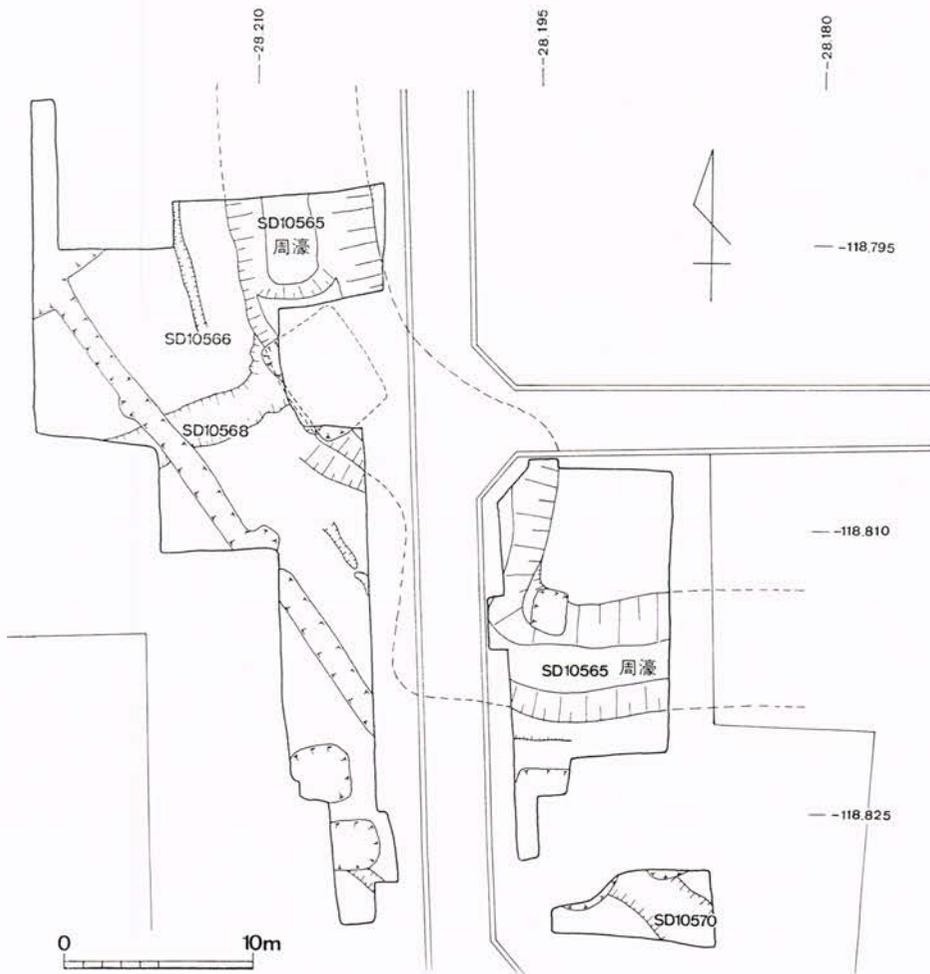
この古墳は、規模や形、出土遺物等から、古墳時代後期の乙訓地方の豪族の墓と考えられますが、早くから削り取られたため地上から姿を消し、墓があることなど忘れ去られ、地名に「舞塚まいづか」と残すのみでした。今回の発掘調査で、初めて古墳の存在を確認することができました。発掘調査の必要性というものが痛感させられる一例といえるでしょう。



後円部周濠



人物埴輪出土状況



舞塚古墳平面図

医王谷古墳

古墳時代・後期
亀岡市下矢田町医王谷25-1



古墳全景

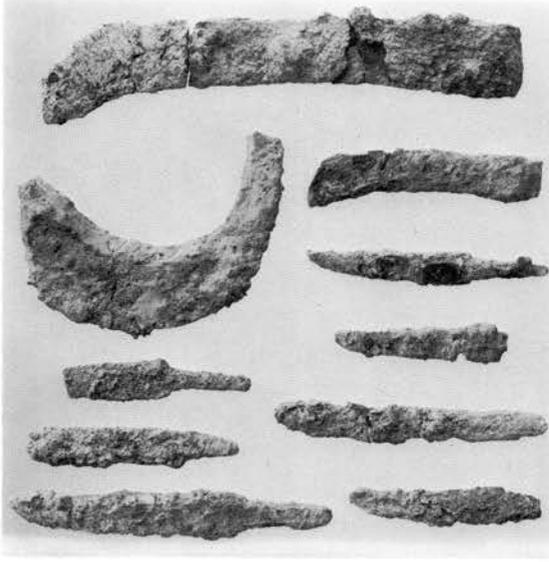
〔遺跡の概要〕

医王谷古墳は、亀岡市街地から西南約 1.5 km の、竜ヶ尾山と西山の谷部に位置します。この古墳は、竜ヶ尾山北東麓^{ろく}の西から東へのびる小さい尾根の端にあって、尾根を断ち切^{うかが}ってつくっている様子が窺えます。

この古墳の内部主体は、南東側に羨道部^{せんどう}が開口する両袖式^{りょうそで}の横穴式石室^{よこあなしきせきしつ}で口丹波地方の古墳では古い方に属します。石室の奥壁側・東壁側では時期を異にする棺台状^{おくへき}の施設^{かんだい}が認められました。このことは、はじめの埋葬が行われて、年月を経てから、別の者の埋葬があったことを意味しています。

この古墳の石室内からは、須恵器^{すえき}・鉄器^{てつぎ}・装身具^{そうしんぐ}等の遺物が出土しており、時期は6世紀中葉頃のもの、それよりやや新くなるものの二形式存在しています。このことも埋葬が二回あったことを示しています。

このほか、羨道^{せんどう}の前方には、墓前祭祀^{ぼぜんさいし}の供献用とみられる遺物が残存していました。これも、当時の葬礼のあり方を考える上で貴重な資料といえます。



23. 鉄器



24. 石製紡錘車



25. 須惠器・杯身



26. 須惠器・高杯



27. 須惠器・短頸壺，同蓋



28. 須惠器・台付有蓋壺

小屋ヶ谷古墳

古墳時代・後期
福知山市字大内小字後正寺



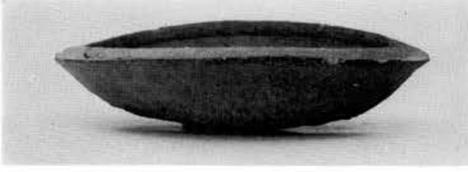
横穴式石室

〔遺跡の概要〕

小屋ヶ谷古墳は、大内城跡の南丘陵尾根の先端部に位置しています。

この古墳は平安～江戸時代の古墓群を調査していたときに、その下層遺構として発見されたものです。内部主体は、横穴式石室でしたが、天井石と側壁の上側の石材は、すでに抜き取られていて、一番底の部分（基底部分）から2～3段の側壁を残すにすぎませんでした。しかし石室内の遺物は残り具合がよく、副葬品の出土状況から3～4回の埋葬が行われたことがわかります。また、石室の床面には、棺を置いたとみられる棺台状の石敷の施設が認められました。石室のプランは、羨道部から玄室部にかけて東側の石材が抜きとられていたので、詳しくは不明ですが、石材をたてたときの掘り方の状況からみて、両袖式であったと推定されます。

この古墳の築造年代は、出土遺物からみて、6世紀後半に比定され、その後半世紀にわたって追葬が行われたと考えられます。



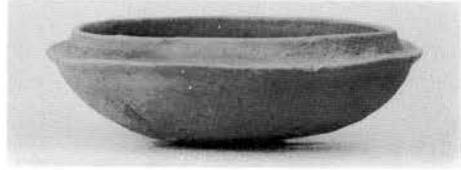
29. 須恵器・杯身



30. 須恵器・杯蓋



31. 須恵器・甕



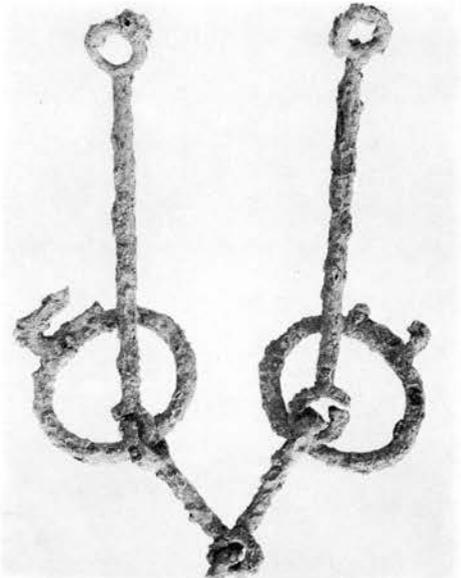
32. 須恵器・杯身



33. 須恵器・短頸壺



34. 須恵器・提瓶

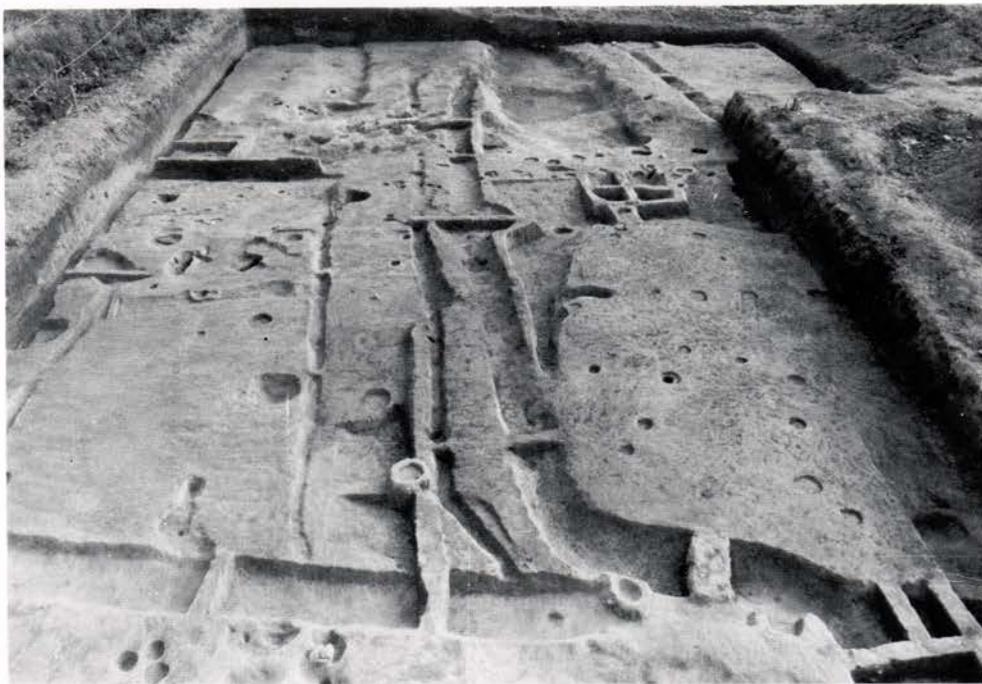


35. 馬具・くつわ

井ノ内遺跡

(長岡京跡右京第107次調査)

古墳時代・後期
長岡京市井ノ内西ノ口



溝・柱穴

〔遺跡の概要〕

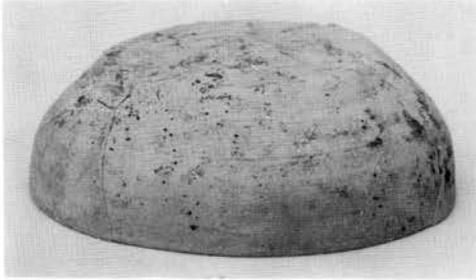
この遺跡は、長岡京市井ノ内の集落の西側に広がる遺跡です。今回の調査は、長岡京跡の右京第107次調査として実施したのですが、中世や古墳時代の遺構を検出しました。

ここでは、中世の溝や柱穴、土壙等とともに、古墳時代の土壙墓を検出することができました。古墳時代の土壙墓は、後世の攪乱のため、かなり破壊を受けていますが、長さ約1.8~2.0m、幅約0.3~0.4mを計ります。墓壙内からは、須恵器の杯身・杯蓋・壺や金環等が出土し、杯身・杯蓋を枕に転用したと考えられるものもありました。これらの墓は、地山に直接穴を掘って遺体を埋納したもので、周囲に溝を掘ったり土を盛って塚などを築いたりはしていません。ここに葬られた人々は、そうした塚を築いて墓をつくる人々とは階層が違うのでしょうか。

しかし、調査地のすぐ近辺には、前方後円墳等もあり、乙訓地方の古墳時代を考える上で興味深い資料といえます。



土壙墓・遺物出土狀況



36. 須恵器・杯蓋



37. 須恵器・短頸壺



38. 須恵器・杯身



41. 須恵器・短頸壺



39. 金環



40. 金環



42. 鉄器・刀子

今里遺跡

(長岡京跡右京第105次調査)

奈良時代
長岡京市今里



溝

〔遺跡の概要〕

この遺跡は、乙訓寺の所在する今里の集落を中心に広がる弥生時代から中世に至る遺跡です。今回の調査は、都市計画道路建設工事に伴って長岡京跡第105次調査として行ったものです。調査地は、今里の集落の西に当たり、周辺には新興住宅が建て並んできています。

今回の調査では、今里遺跡のものとしては中世の井戸や土壇・柱穴等とともに、奈良時代の溝を検出しました。この溝は、東西方向にやや蛇行しながら流れるもので、溝中からは、須恵器の杯・蓋・鉢・甕や土師器の杯・皿・甕、そして製塩土器等が出土しました。また、この溝を埋めた後、長岡京時代の建物跡が建てられています。

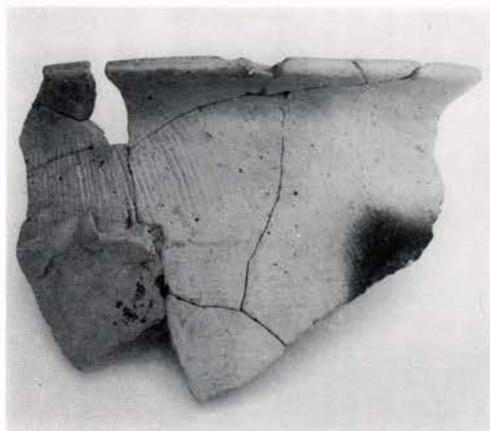
今回の調査では、奈良時代のものとしては溝を検出しましたが、昨年度の調査では、建物跡も多数検出しています。これらのことからこの近辺に奈良時代の集落が広がっていたことが判ります。そして、この集落の東側に、奈良時代の瓦を出土する寺が存在することは、興味深いことです。



43. 土師器・杯



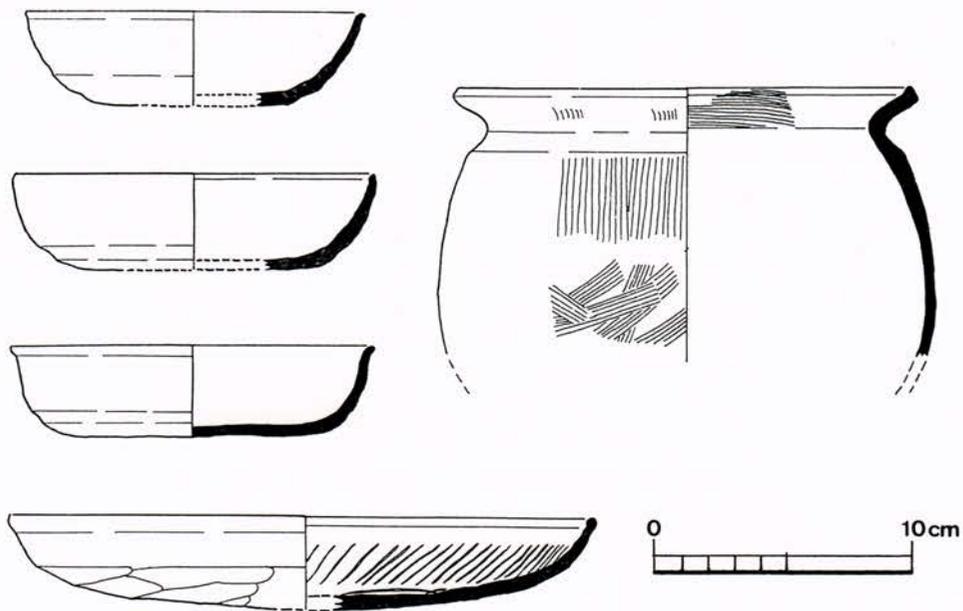
44. 土師器・杯



45. 土師器・甕



46. 土師器・甕



長岡宮跡

長岡京時代
(宮内第123次・125次) 向日市寺戸町東野辺, 同市森本町前田



長岡宮跡第123次調査

掘立柱建物跡

〔遺跡の概要〕

当センターが行った長岡宮跡の調査は2件あります。その内の第123次調査では、長岡京時代の建物跡を検出しました。この建物跡は、柱の掘り方が $1.1\text{m} \times 0.8\text{m}$ を計る大きなもので、全長が東西 13.5m 、南北 5.4m あり、柱と柱の間隔は 2.7m を計ります。この辺りは、各種の官衙（役所）域に当たり、そうしたなかの建物の一つと考えられます。

また、もう一か所の第125次調査は、長岡宮の東端に当たり、宮の東限を区画すると考えられる南北溝や長岡京時代の流路跡を検出しました。これらの溝や流路の中からは、多くの土器片とともに、『家人四人』等と書かれた木簡や『和銅開珎』、『神功開宝』等の銅銭、櫛等が出土しました。また、出土した土器は、須恵器の杯身・皿、土師器の椀・皿・杯等ですが、中には字や人の顔を墨で書いてある墨書土器もあります。

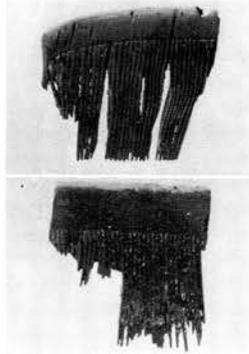


長岡宮跡第125次調査

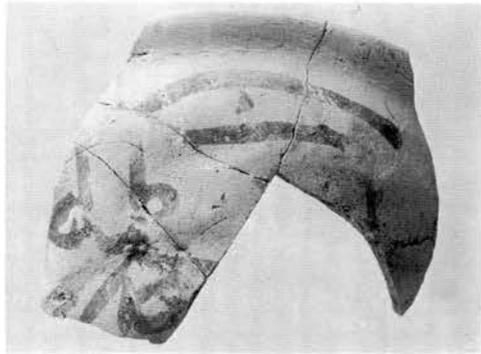
流路跡



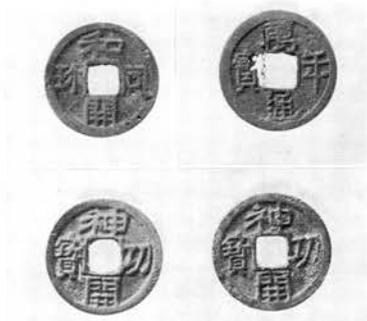
47. 木簡



48. 櫛



49. 墨書人面土器



50. 錢貨



51. 軒平瓦

長岡京跡

(右京第105次・107次・110次，左京第98次)

長岡京時代
長岡京市今里西ノ口舞塚
同市井ノ内西ノ口
同市今里三丁目
向日市上植野町西太田



長岡宮跡左京第98次調査

調査地全景

〔遺跡の概要〕

長岡京域では、右京・左京あわせ、計4件の調査を実施しました。

まず、右京第105次調査の結果、長岡京時代の建物跡などを検出しました。建物跡は2棟検出し、1棟は、南側に^{ひさし}庇を持ち、東西3間、南北3間と推定される建物で、もう1棟は、四面庇を持ち、南北7間、東西4間と推定される建物です。建物跡の柱穴からは、土師器片や平瓦・丸瓦・軒丸瓦等が出土しました。

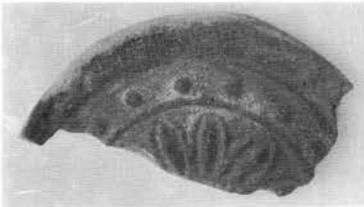
右京第107次調査では、中世の遺構が大部分を占め、長岡京時代の遺構は検出されませんでした。須恵器や土師器がかなり出土し、この時期の人々が、この一帯に生活していたことは間違いのないでしょう。

また、右京第110次調査では、長岡京の^{じょうかん}三条条間小路の北側溝を検出し、溝中からは、土師器の杯・皿・甕や須恵器の杯・壺・甕、また軒平瓦等が出土しました。

左京第98次調査では、長岡京時代の建物跡を2棟検出しました。この調査では、須恵器

土師器の他に墨書土器が多数出土しました。また、柱穴の掘り方から、体部に孔を穿ち、底部に墨書を施した須恵器の壺が出土しました。建物を建築する際に何らかのおまつりをしたのでしょうか。

以上のように、長岡京時代の建物跡や溝等を検出しました。それぞれ長岡京を考える上で、よい資料となることでしょう。また、これらの各調査では、長岡京以外の遺構も検出しました。右京第105次調査における舞塚古墳や今里遺跡、右京第107次調査における井ノ内遺跡などです。この様に長岡京では、長岡京跡だけではなく、各時代の種々様々な人々の生活の跡が検出されています。なお、長岡京以外の遺構等については、別個に各遺跡として取り上げてありますので、それぞれの説明を御参照下さい。



52. 軒丸瓦



53. 軒平瓦



須恵器・壺（墨書）出土状況



右京第105次調査・掘立柱建物検出状況



調査地全景

〔遺跡の概要〕

篠窯跡群の発掘調査は、昭和52年度の前山1号窯より開始され、これまで16基の窯跡の調査を行いました。

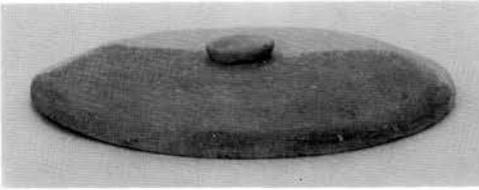
石原畑窯跡群は、昭和57年度の試掘調査により丘陵西側斜面に灰原の一部を確認したことから発掘調査に至りました。調査の結果、3基の半地下式窖窯とその関連遺構を検出しました。

1号窯は、^{よう}焚口部と^{えんどうぶ}煙道部の一部が後世の^{さくへい}削平を受け、^{いぞん}遺存状態は悪かったが、^{つき}杯・^{わん}碗・^{はち}鉢・^{へいし}瓶子等を大量に出土しました。

2号窯は、1号窯の北5mに隣りあっていて、これまで調査した窯の中では最も大きいものであることがわかりました。

3号窯は、1・2号窯の東、丘陵上部に造られており、遺物も^{ふた}杯・皿・蓋等が窯体内にころがった状態で出土し、最も残りのよいものでした。

時期は、3号窯が8世紀後半、1・2号窯が9世紀後半のものと推定され、約100年間にわたって^{そうぎよう}操業されたことが明らかになりました。



54. 須恵器・杯蓋



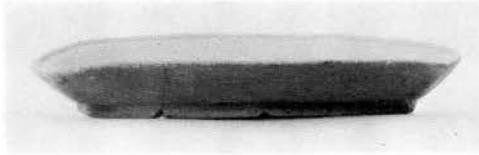
55. 須恵器・杯蓋



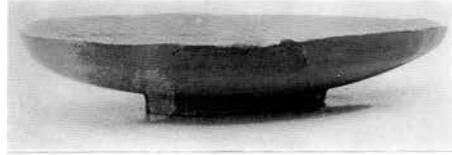
56. 須恵器・杯身



57. 須恵器・杯身



58. 須恵器・皿



59. 須恵器・皿



60. 須恵器・杯



62. 須恵器・壺



61. 須恵器・円面碗

下畑遺跡

平安時代末～鎌倉時代
与謝郡野田川町字三河内



井戸

〔遺跡の概要〕

下畑遺跡は、野田川の支流である岩屋川が加悦谷へ注ぎ込む右岸の丘陵の端に位置しています。

今回の調査では、平安時代末期の井戸等を検出することができました。この井戸は、一辺約1.2mの方形を呈する木枠組みの井戸です。井戸の中からは、黒色土器碗の他、漆器碗や下駄・しゃもじ状木製品・はし・曲物底といったものが出土しました。これらの遺物は、出土状況や内容から考えて、何らかの祭祀に使用されたものと考えられます。またこの井戸は、底が湧水層まで達しておられず、天水や南方の湿潤地からの集水を利用したものと考えられます。

この井戸以外の遺構としては、井戸よりやや時代の降る杭列を検出したのみですが、今回の調査で、平安時代末期から鎌倉時代にかけて、ここに人々が生活していた跡を確認したことは、大きな成果です。



63. 黒色土器・椀



64. 黒色土器・小型壺



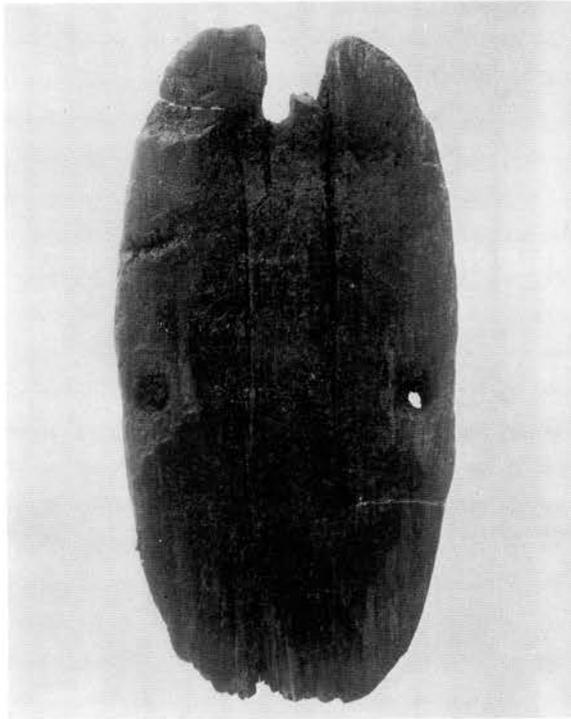
65. 漆器・椀



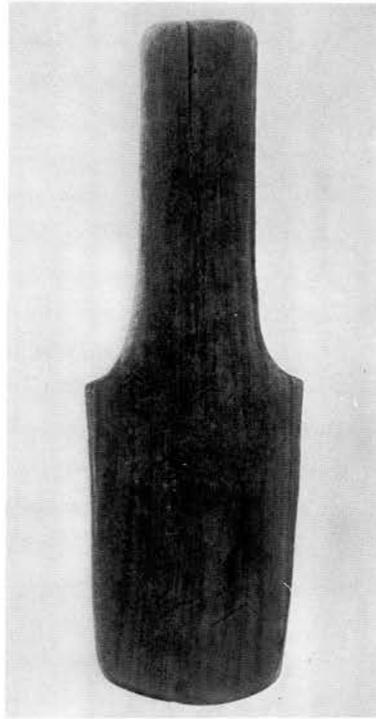
66. 黒色土器・小皿



67. 漆器・小皿



68. 下 駄



69. シャもじ状木製品

後正寺古墓

平安時代末葉
福知山市字大内小字後正寺



古 墓

〔遺跡の概要〕

後正寺古墓は、大内城跡の南側丘陵尾根の先端部に位置しています。

調査の結果、3基の塚（塚1～3）・近世土壙基（？）1・中世集石遺構3以上・埋納土器などが検出されました。塚は表面に20～30cmの大きさの自然石が葺かれていて、調査前から古墓ではないかと推定されていたものです。塚1～3では、明確な埋葬施設は確認できませんでしたが、盛土の中から『寛永通宝』が出土したことから、江戸時代の頃の築造と考えられます。

塚2の下層では内部に炭・焼土を含む土壙と、それより南東約1.5mの地点で、瓦器碗・黒色土器が埋納された状態で出土しました。これらの土器は、いずれも平安時代終わり頃のもので、この土壙が墓とすると、その頃に造られたことを示していると考えられます。



70. 瓦器・碗



71. 黑色土器・碗



72. 須恵器・片口鉢



後正寺古墓平面図



古 墓

〔遺跡の概要〕

山田館跡は、大内城跡の南約 1 km の丘陵上にあつて、標高90m前後の地点に位置します。

当遺跡の所在する付近に「^{いおうじ}医王寺」という小字名が残っており、古く寺があつたと推定されます。丘陵上はゆるやかな斜面で開けていて、^{どるい}土塁状の盛り上がりがあつたため、当初、城館跡と推定して調査に入りました。

調査の結果、調査地の中央の土塁状の盛り上がりを中心として、中世墓群を発見しました。墓の形態は火葬墓で、なかには中世陶器、土師器鍋、瀬戸灰釉瓶子を蔵骨器として用いているものもありました。これらは日常雑器を中心としたものであつて、大内城の墓が大型の特注品と考えられるものを使用していたのと対照的です。この差は、大内城中世墳墓群の被葬者と比較した場合、やや下の階層の人々であることを示しているといえます。

この墳墓群の実年代は、鎌倉時代後半から南北朝時代にかけての時期で、大内城の墳墓群が造営されたのと時期的にほぼ一致します。



73. 土師器・鍋



74. 瀬戸灰釉瓶子



遺物出土状況

大内城古 墓

鎌倉時代
福知山市字大内小字平城

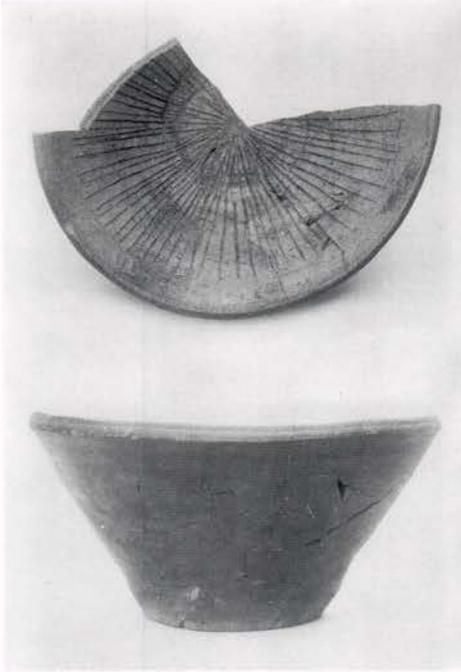


調査地全景

〔遺跡の概要〕

大内城古墓は、平安時代から室町時代の城館の一つである大内城跡の東北隅に位置する鎌倉時代後期から南北朝時代にかけての墓跡です。墓地の範囲を墓域ぼいきといますが、ここでは、東西6.5m、南北3mの広さがあり、この区域には丸くなった礫れきが約30～40cmの厚さで敷かれていました。しかも、墓域全体を三方向から塞ふさぐ形で、幅約2mの溝が掘られており、結局、東西14m、南北13mの範囲が当時の生活空間と切り離され、まさに死者の世界をつくっていました。

調査の結果、この墓域の中から合計5個の蔵骨器が発見されましたが、それぞれ特色のあるものです。時期は約100年間にも及んでいますので、だいたい4世紀に及ぶ埋葬施設と考えられます。広い墓域をもつことと、立派な蔵骨器であることからみて、被葬者と考えられる大内城の主は、丹波国六人部むとべのしやう 荘しやうかんの荘官か、もしくはその系譜けいふに連なるものつらの可能性が強いとみてよいように思われます。



75. 陶器・播鉢



76. 陶器・三耳壺



77. 陶器・壺



78. 陶器・壺，甕腹

伏見城跡

安土・桃山時代
京都市伏見区桃山毛利長門町東町



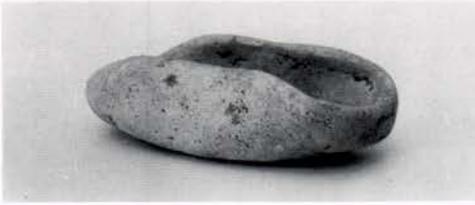
溝

〔遺跡の概要〕

豊臣秀吉が、自身の隠居所^{いんきょじよ}として築いた伏見城は、地震や関ヶ原の合戦で破壊・焼亡しながらも、その度^{たび}に復旧されましたが、將軍徳川家光の時代に廃城となりました。

今回の調査地は、大名屋敷の一つに推定されている場所で、石組みの溝・素掘りの大溝・建物跡・井戸・土塋^{どこう}等の遺構を検出しました。特に石組み溝は、素掘りの大溝を埋めた上に作り直したものです。さらに石組み溝自身作り直しがあり、都合3回に亘^{わた}って溝が作られています。この溝は、あるいは大名屋敷を区画した溝かもしれません。また、土塋や素掘りの大溝には、焼土が投棄されており、その上を整地していました。これは、焼亡した後、作り直したことを物語っています。

出土遺物としては、土師皿^{はじざら}や瀬戸灰釉皿^{せとかいゆうざら}などの他、金箔瓦^{きんぱくがわら}がかなり出土しております。まさに桃山文化^{しの}を偲ぶものと言えるでしょう。



79. 土師器・燈明皿



80. 土師器・小皿



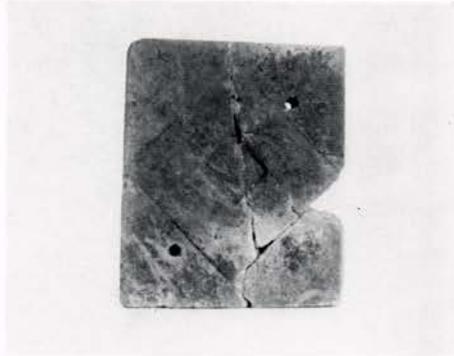
81. 土師器・小皿



82. 土師器・小皿



83. 飾り瓦



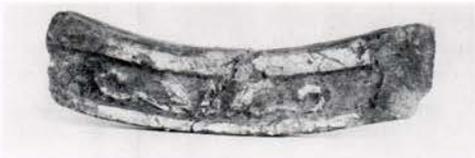
84. 方形裝飾瓦



85. 金箔・軒丸瓦



86. 金箔・軒丸瓦



87. 金箔・軒平瓦



88. 軒平瓦

医王谷焼窯跡

江戸時代～明治時代前半
亀岡市下矢田町医王谷



連房式登窯跡

〔遺跡の概要〕

医王谷焼窯跡は、亀岡市街地南方にそびえる竜ヶ尾山北東麓に位置します。

医王谷焼というのは、寛延2年（1749）松平信岑が丹波篠山から丹波亀山へ転封されたときに、丹波焼の工人をつれてきて藩窯として開業したと伝えられています。その後、明治になって廃窯となりますが、明治12年（1879）頃に民窯の「亀岡焼」として再興され、約3年間操業したとのことです。

今回検出した窯体は、削平のためわずかに燃焼室が残っていたにすぎませんが、京焼の窯と似ており、連房式登窯と推定することができます。

遺物は、藩窯時代のもものと民窯時代の両方あり、藩窯時代のもものは、丹波焼系より京焼系の陶器が多いようです。このことからみて、医王谷焼は、丹波焼系の工人によってはじめられたものの、その後の京焼系工人の指導や影響をうけて、しだいに京焼系のものが焼かれるようになったと推定されます。



89. 鉢



90. どびん



91. 片手鍋



92. 小皿



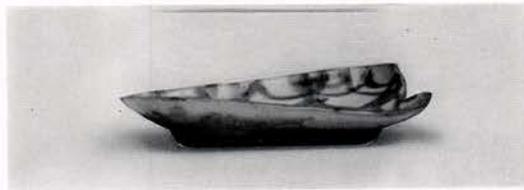
93. 小皿



94. 茶碗



95. 小鉢



96. 角小皿



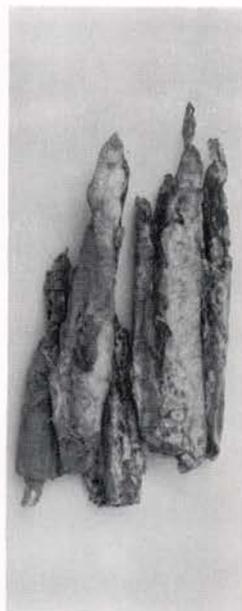
97. ちりれんげ

大道寺経塚出土の経巻

平安時代末～鎌倉時代
福知山市大字今安小字大道



経筒埋納状況



経巻・修理前

〔経巻の概要〕

この経巻は、大道寺経塚の中から出てきたものですが、埋められてから約800年の年月がたっているため、巻物の表紙・紐・軸などは腐っていました。

そこで、岡墨光堂に委託して保存修理を実施しました。修理方法は、水等で巻物をひらき、樹脂で補強した後に、裏打ちを行うというものです。その結果、法華経8巻・阿弥陀経1巻とわかりました。

これまで、出土した経本などはいたんでいて、このような修理を行うことは少なかったのですが、こうすれば文字が読めて、今回のように阿弥陀経まで埋められた事実がわかるようになりました。

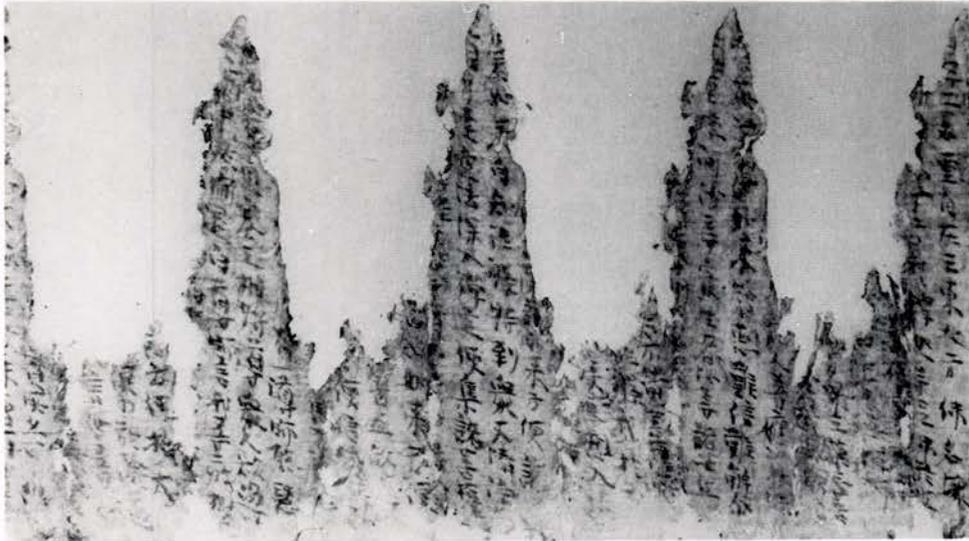
年代についてはが奥書、失われていてわかりませんが、字体や料紙（経の書かれた紙）から12世紀代のものと推定されます。



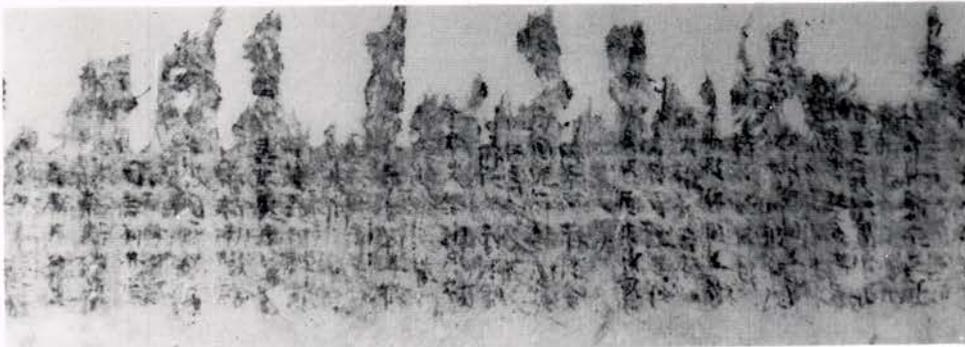
経巻 法華経8巻・阿弥陀経1巻
(保存修理後)

華國法成阿耨多羅三藐三菩提... 諸佛... 沙等眾生... 提此諸眾生... 阿耨多羅三藐三菩提... 漸入佛道... 時所化無量... 及我滅度... 度後復有... 行自於所... 餘國作佛... 於涅槃而... 佛乘而得... 法諸比丘... 信解堅固... 及聲聞眾... 度唯一佛... 深入眾生... 是等故說... 五百由旬... 有多眾... 明達善... 難所將... 而復希...

頂妙寺藏版法華經·卷第三



98. 出土法華經·卷第三 (保存修理後)



99. 出土阿彌陀經 (保存修理後)

展 示 品 目 録

番号	遺跡名	出 品 遺 物	点数	時 代	写真番号	番号	遺跡名	出 品 遺 物	点数	時 代	写真番号				
1	太田遺跡	弥生土器 無頸壺	1	弥生前期	5			磨製石剣	1	弥 生	18				
		〃 壺	1	〃	2			5	今里舞塚古墳	人物埴輪	1	古墳後期			
		〃 甕	3	〃	1.4					円筒埴輪	1	〃			
		〃 鉢	1	〃	3					6	医王谷古墳	須恵器 杯蓋	2	古墳後期	
		〃 蓋	1	〃								〃 杯身	2	〃	25
		〃 小型鉢	1	弥生中期	6							〃 台付有蓋壺	1	〃	28
		〃 蓋	1	〃								〃 短頸壺	1	〃	27
石 器	20	弥 生		〃 有蓋高杯	1	〃	26								
無文土器片	1	〃		〃 提瓶	1	〃									
2	古殿遺跡	弥生土器 台付壺	1	弥生後期				〃 横瓶	1	〃					
		〃 甕	2	〃				〃 臚	1	〃					
		〃 鉢	1	〃				勾 玉	1	〃					
		〃 把手付鉢	1	〃				管 玉	9	〃					
		〃 蓋	1	〃	12			ナツメ玉	3	〃					
		〃 器台	1	〃	11			土 玉	66	〃					
		土師器 壺	1	古墳前期	10			紡錘車	1	〃	24				
		〃 小型丸底壺	1	〃	7			鉄 器	10	〃	23				
		〃 甕	1	〃				7	小屋ヶ谷古墳	須恵器 杯蓋	1	古墳後期	30		
		〃 高杯	1	〃	8					〃 杯身	2	〃	29・32		
		〃 鼓形器台	1	〃						〃 短頸壺	1	〃	33		
		〃 ミニチュア土器	6	〃						〃 提瓶	1	〃	34		
		〃 注口土器	1	〃	9					〃 臚	1	〃	31		
木 器 案	1	〃		土師器 壺	1	〃									
3	木津川河床遺跡	弥生土器 壺	1	弥生後期	16			勾 玉	2	〃					
		〃 甕	1	〃	15			管 玉	4	〃					
		〃 鉢	1	〃	13			金 環	1	〃					
		〃 蓋	1	〃	14			馬 具	3	〃	35				
		土師器 甕	1	古墳前期	17			8	井ノ内遺跡	須恵器 杯蓋・杯身	2	古墳後期	36・38		
4	青野西遺跡	弥生土器 有孔鉢	1	弥 生	20	〃 短頸壺	2			〃	37・41				
		土師器 小型丸底壺	1	古墳前期	19	金 環	2			〃	39・40				
		〃 甕	1	〃	21	鉄 器 (刀子)	1			〃	42				
		〃 高杯	1	〃	22										

番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号	番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号		
9	今里遺跡	土師器 甕	2	奈良	45・46			黒色土器 皿	2	平安末 ～鎌倉			
		〃 皿	1	〃	〃								
		〃 杯	2	〃	43・44			〃 碗	5	〃		63	
〃 碗	1	〃	〃	〃 小皿	1			〃	66				
10	長岡宮跡 123次, 125次	木 筒	1	長岡京期	47	14	後正寺古 墓	片 口 鉢	1	平安末	72		
		墨書土器 櫛	3	〃	49			瓦 器 碗	1	〃	70		
		軒平瓦	1	〃	51			黒色土器 碗	1	〃	71		
		須恵器 杯身	1	〃	〃	15	山田館跡	瀬戸灰釉瓶子	1	鎌 倉	74		
		〃 皿	1	〃	〃			土師器 鍋	1	〃	73		
		土師器 皿	2	〃	〃			16	大内城古 墓	陶 器 壺	1	鎌 倉	
		銭 貨	4	〃	〃 三耳壺					1	〃	76	
土師器 碗	1	〃	50	〃 甕腹	1	〃	78						
11	長岡京跡 右京105 次, 107 次, 110 次, 左京 98次	軒丸瓦 (右京105次)	1	長岡京期	52			〃 播鉢	1	〃	75		
		軒平瓦 (右京110次)	1	〃	53			〃 壺	1	〃	77		
		須恵器 壺 (左京98次)	1	〃	〃			17	伏見城跡	軒丸瓦	5	安土桃山	85・86
		〃 壺 (右京107次)	1	〃	〃					軒平瓦	2	〃	87・88
		墨書土器片 (左京98次)	3	〃	〃	飾り瓦	1	〃	83				
		土師器碗 (右京107次)	1	〃	〃	方形裝飾瓦	1	〃	84				
12	篠石原畑 窯跡群	須恵器 蓋	2	奈良	54			瀬戸灰釉小皿	2	〃	79・80		
		〃 杯	3	〃	56・60			土師質皿	5	〃	81・82		
		〃 皿	2	〃	58			18	医王谷焼 窯跡	鉢	1	江戸末 ～明治	89
		〃 蓋	1	平安	55					片手鍋	1	〃	91
		〃 杯	1	〃	57					小 皿	2	〃	92・93
		〃 壺	3	〃	62					小 鉢	1	〃	95
		〃 皿	1	〃	59					ちりれんげ	1	〃	97
		〃 鉢	1	〃	〃					角小皿	1	〃	96
		〃 重ね焼	1	〃	〃					どびん	1	〃	90
		〃 円面硯	1	〃	61					茶 碗	1	〃	94
13	下畑遺跡	木 器 下駄	1	平安末 ～鎌倉	68	19	大道寺経 塚	経 卷	2	平安末 ～鎌倉	98・99		
		〃 シャもじ	1	〃	69			19件			274 点	99	
		漆 器 小皿	1	〃	67								
		〃 碗	1	〃	65								
		黒色土器 小壺	2	〃	64								

考 古 展

第2回「小さな展覧会」

—昭和57年度発掘調査の成果から—

昭和58年8月20日(土)～8月31日(水)

発 行 (財) 京都府埋蔵文化財調査研究
センター

〒602 京都市上京区広小路通寺町東入ル中
御霊町424番地 TEL(075)256-0416

印 刷 中 西 印 刷 株 式 会 社
代 表 者 中 西 亨

〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL (075)441-3155(代)

M E M O

M E M O

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター 1983・8・20~8・31

